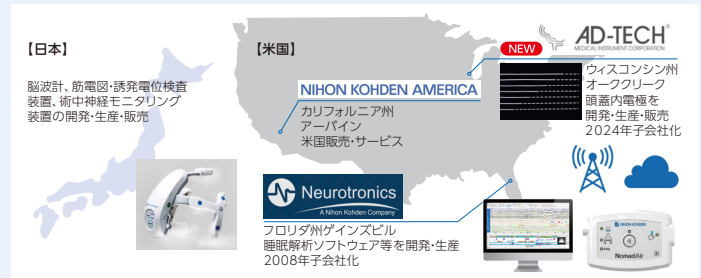


米国 Ad-Tech Medical Instrument Corporationを子会社化

昨年11月、米国ウィスコンシン州のアドテック(株)の親会社の株式71.4%を取得し、子会社化しました。アドテック(株)は、難治性てんかんの外科治療に用いられる頭蓋内電極を世界60カ国以上に販売しています。日本光電は、1951年の創業以来、脳波計を開発・生産・販売し、グローバルで高い評価と市場シェアを獲得しています。また、アドテック(株)製品の日本における独占販売権を有しており、国内の医療機関に30年以上にわたり提供してきました。当社の脳神経機器とアドテック(株)の頭蓋内電極にはてんかん診断・治療領域での高い親和性があり、侵襲性の高い消耗品の技術・生産ノウハウの獲得により、当社のコア技術であるHMI[※]のより一層の強化を図るとともに、脳神経事業における機器と消耗品を合わせた収益の安定化と持続的な成長を図ります。この目的を達成するために、本年4月に脳神経事業統括部を新設しました。日本の開発部門、米国のアドテック(株)、ニューロトロニクス LLCなど脳神経系部門を統括し、各社の培ってきた技術と知識の融合を進めます。また、国内外の医療機関や研究機関との連携を強化することで、最先端の治療



日米における脳神経機器の開発・生産・販売体制

にさらなる貢献を果たし、てんかん治療や神経集中治療など、脳神経領域における検査から診断・治療・予後に至るまで、患者さん一人ひとりに最適なケアサイクルソリューションの提供を目指します。

※ HMI(ヒューマン・マシン・インターフェース)：人間と機械との接点。当社の場合、センサ技術、信号処理技術、データ解析技術の総称。



上席執行役員
Chief Innovation Officer (CIO)
脳神経事業統括部長
アドテック(株) CEO
今城 郁

生成AI導入による人員生産性向上の取り組み

中期経営計画の重要施策の1つである「全社収益改革の実行」では、生成AIの積極活用による業務の効率化に取り組んでいます。第74期には、グループウェアで生成AI2,000ライセンスを導入し、生成AI入力ルールや活用ガイドラインの策定、勉強会の定期開催など社内運用体制を整備しました。また、生成AIアプリケーションの自社開発も行い、コア業務に集中できる環境構築を進めています。全部門向けには、ショートカットキーで文書翻訳やOCR[※]読み取りができるアプリケーションの運用を開始しました。営業・サービス部門向けには、当社製品に関する質問に対して取扱説明書をもとに自動回答する製品QAチャットボットの運用を開始しています。技術開発部門向けには、医療機器に関する有害事象データからのリスク分析やコールセンタへの顧客問い合わせ内容の分類・分析に活用できるExcel用アドインの運用を開始しました。また、医療機器の開発工数削減や品質向上に向けて、開発用プログラミング支援ライセンスの導入に着手しています。これらの取り組みの結果、第74期は、業務の効率化により年間38万時間を創出できたと推計しています。



製品QAチャットボットの画面

第75期は、国内外におけるさらなる利用率向上に向けて、積極活用を促進するとともに、各種アプリケーションの開発に注力します。

※ OCR(Optical Character Recognition)：光学文字認識



経営戦略統括部 経営戦略部
生成AI開発推進課長
奥村 祐太

株主様アンケートのお願い

今後の株主通信・IR活動の充実のため、株主の皆様のご意見を参考にさせていただきたく、アンケートへのご協力をお願いいたします。WEBアンケートをご用意していますので、下記のQRコードからアクセスしてご回答ください。なお、WEBアンケートにご回答いただく場合は、同封のアンケートはがきのご記入・返送は不要です。



<https://forms.office.com/r/0zFMMekLuj>

第73期 株主様アンケートでいただいたご意見

- ・中期経営計画に関する説明が充実していて理解が深まった。
- ・今後も当社の成長と医療への貢献を応援したい。
- ・会社説明会(会場開催・オンライン形式)を開催してほしい。
- ・収益確保、安定配当を期待している。
- ・株主通信は情報が簡潔にまとまっていて分かりやすい。

貴重なご意見を多数お寄せいただきありがとうございました。